

第3章 課題の整理

上記の調査結果の分析をもとに、課題を以下のように整理します。

3-1 公共交通ネットワーク全体からみた課題

① 公共交通の機能充実

第4次総合計画策定時の住民アンケート調査では、本町の環境に関して不満の最も大きい項目が「路線バスの状況」であり、バス交通の運行改善が要望されています。

路線バスは、五位堂駅と大和高田駅へのアクセス交通として機能していますが、運行本数の増便、運賃の低廉化、バス停までの距離の改善に対する要望が多くなっています。

広陵元気号は町内の施設アクセス及び東部・北部地区からは大和高田駅・箸尾駅へのアクセスの機能を担っていますが、運行本数の増便に対する要望が多くなっています。

一方、鉄道は広域交通として、タクシーは高齢者等の移動手段として重要な役割を担っています。

これらの公共交通は、それぞれの役割にあった機能を充実させ、福祉有償運送とも連携して、町民の満足度を高める必要があります。

② 鉄道とバスとの接続強化

住民アンケート調査では、鉄道を利用していない人のうち、鉄道駅までのバスが便利になったら利用するという人が約35%もあり、希望する行き先で最も多いのが大和高田駅、五位堂駅、箸尾駅です。広陵元気号の最も多い行き先も大和高田駅となっています。

本町では、これらの鉄道へのアクセスとなるバス交通を充実させ、バスと鉄道との接続強化を図ることが重要な課題といえます。

③ 広陵元気号のルート・運行本数・車両の改善

広陵元気号は、以前のデマンド方式から定時定路線方式に変更されてから、利用者は約8倍（H23：2,796人、H25：22,618人）にも増えていますが、運行本数が南北線、東西線ともに6便（右回り3便、左回り3便）であり、片方向は4時間に1便のため、利用者からも増便の要望が出されています。

このため、利用者ニーズに合った形で、ルート・運行本数のサービス水準を改善することが必要です。

運行サービス方法として、周辺市町でデマンド交通が運行されていますが、本町では利用意向は高くない（住民アンケート調査）ことから、デマンド交通の導入については慎重に判断することが必要です。

利用者から「バスの乗り降りがづらい」という声も多く、乗り降りのしやすさについても改善が必要です。

④ 広陵元気号の有料化の検討

広陵元気号は現在、無料で運行されていますが、住民及び利用者アンケート調査では、

有料になっても利用したいという人が多く、その料金は100円が最も多くなっています。

鉄道・路線バスが有料であること、受益者負担の原則などの観点から、有料化について検討が必要です。

⑤ 地域との協働による公共交通利用促進の取組み

住民アンケート調査では、現在公共交通を利用している人は約25%、今は公共交通を利用していなくても、将来あるいは今後可能な範囲で利用したいという人が約50%もあり、合わせて約75%の人が将来にわたって公共交通を利用する意向をもっています。

しかしながら、現状は、町内の路線バス利用者の減少が見込まれる等、公共交通を維持していくための環境が整っていない状況です。

公共交通を維持していくには、交通事業者や行政の取組みに加えて、地域住民が公共交通の必要性を認識するとともに、地域で守り育てていく観点から、住民と行政が一体となって、利用促進に取り組む必要があります。

3-2 路線別の課題

公共交通ネットワーク全体からみた課題を踏まえ、公共交通の区分別にみた課題を下表のとおり整理しました。

表 路線別の課題

区分	課題
鉄道（近鉄）	<ul style="list-style-type: none">・利用しやすい環境整備（駐車場・駐輪場の整備、バスの接続・便数の強化等）・利用促進策の実施
路線バス （奈良交通）	<ul style="list-style-type: none">・利用促進策の実施・運行ルートの見直し
広陵元気号	<ul style="list-style-type: none">・ネットワークの見直し検討・デマンド方式を含めた運行方法の検討・運賃制度の適正化検討・地域が主体となったルート等の検討、利用促進の取組み・利用促進策の実施